

1960年11月25日に、ドミニカ共和国で独裁政治に反対する活動を行っていたミラバル姉妹が、ラファエル・トルヒーヨ政権（当時）によって残忍な形で暗殺された事件をきっかけに、女性に対するあらゆる暴力を根絶するため、1999年12月17日の国連総会で制定されました。

5 ジェンダー平等を実現しよう



ジェンダーに基づく暴力とは

女性に対する暴力は**世界で最も蔓延している人権侵害**と言われており、家庭内、戦時下に限らず、学校、路上、職場などの公の場やオンラインなどのあらゆる場面・場所で起きています。

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）ではジェンダーに基づく暴力を下記のように分けています。

- 1:性的搾取・虐待を含む「性暴力」
- 2:殴る蹴るなどの「身体的暴力」
- 3:言葉やいじめによる「心理的暴力」
- 4:女性器切除(FGM)などの「身体的に有害とされる伝統的慣習」
- 5:社会的疎外や貧困といった「社会的・経済的暴力」



世界の女性の3人に1人が
一生のうちに暴力を
経験しています。



世界では、10分毎に1人の
女性・女子がパートナーや
家族に殺されています。
(2023年)

ジェンダーに基づく暴力に反対する16日間 (The 16 Days of Activism Against Gender-Based Violence)

女性に対する暴力は、被害者が誰かに相談したり、声を上げたり、被害を証明したりする（証拠を残す）ことなどに様々なハードルがあることから、被害の実態が明るみに出にくいことが大きな問題点です。そのため、国連では毎年11月25日～12月10日（世界人権デー）に「ジェンダーに基づく暴力に反対する16日間」という啓発キャンペーンを実施しています。

このキャンペーンでは、「女性や女兒に対する暴力のない明るい未来」の象徴としてオレンジをシンボルカラーとしています。

補足：これとは別に、日本国内では内閣府男女共同参画局が毎年11月12～25日に「女性に対する暴力をなくす運動」を実施しており、「女性に対する暴力根絶」のシンボルカラーを紫としています。

ワーク：女性に対する暴力・ジェンダーに基づく暴力を根絶するため、何ができるか考えてみよう。

※アクションの規模は問いません。

※共有する場合、それぞれが書いたことを否定・批判せず受け入れ、認め、ほめ合うようにしましょう。また、共有したくないものは無理に話さなくても問題ありません。（強引に聞き出すこともないようにしましょう）

参考・引用

- ・国連広報センター「女性に対する暴力撤廃の国際デー（11月25日）に寄せるアントニオ・グテーレス国連事務総長メッセージ」（2022年）
- ・公益財団法人日本WHO協会HP「女性の3人に1人が暴力被害」（2021年3月15日）
- ・外務省平成25年度NGO研究会「ジェンダーとNGO」「ジェンダーハンドブック」P.9（2014年3月）
- ・国連女性機関（UN WOMEN）「Five essential facts to know about femicide」（2024年11月25日）「Orange the World」（英語）
- ・内閣府男女共同参画局HP「女性に対する暴力をなくす運動」

Together, We Can CHANGE the World はじめてみよう！あなたにできること。

もっと国際デー！

関連情報を調べてアクションをおこしてみよう！

FTCJはあなたの好きなこと・特技を活かした国際協力をおすすめしています。あなただからこそできる国際協力を一緒に探しませんか？全国のメンバーが様々なアクションを起こしています。アクションのヒントはコチラで検索！

FTCJ 活動ヒント 検索

©認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

最終更新：2025年3月31日